

登屋の首（とやのくび）

五島列島の地下構造を垣間見る

福江島の北中部にある丘の多い半島、登屋の首は、岩の構造が完全にむき出しになっているため重要です。その両側にはっきりと見える地層は地殻変動の巨大な力を示すとともに五島列島の構造を例証しています。

五島層群とは、アジア大陸から移動してきた地盤のかたまりの名称です。ここで、急勾配の丘は西側の比較的新しい黒い流紋岩質溶岩流と交わります。五島層群は半島の東側にある大きく垂直方向に傾いた地層にはっきりと見える北東から南西に走る断層によって分断されています。半島が細くなっている場所付近の地層が露出した部分では、露出した堆積岩の中に、おそらくワニの祖先のものである足跡が見られます。

地殻変動の過程全体をはっきり見られるため、登屋の首は研究者が五島列島の構造と形成を研究する上で他に類を見ない非常に貴重な場所となっています。

比較的年代が古く、高さのある玄武岩でできたこの半島は、比較的年代が浅く平らな溶岩流でできた魚津ヶ崎（ぎょうがさき）とともに白石湾を作り出しました。これは昔から南太平洋から押し寄せる台風などの嵐から避難場所を求める船を守ってきました。長年の間に安全な場所を求めた人々の中には、約 1,000 年前に研究や貿易のために中国に向かう途中でこの半島に立ち寄った仏僧や商人がいました。